



日本体育協会公認  
茨城県スポーツ指導者協議会

# 会報

第 61 号

平成22年9月30日

発行人  
茨城県スポーツ指導者協議会  
会長 照 沼 一 美  
事務局 〒306-0204  
古河市下大野1463-4  
事務局長 鈴 木 義 夫  
会員数912名 (H22. 9. 1 現在)



中央研修会 (H22. 8. 8)

日本体育協会公認  
スポーツ指導者のために

資質向上と  
活動の推進を

連帯感を深め  
組織的活動を

## 目 次

会長あいさつ	2
理事長あいさつ	2
平成21年度収支決算報告書	3
平成22年度収支予算書	3
平成22年度本協議会事業計画書	4
支部だより	5・6
みんなの広場	7・8

# これからの課題



茨城県スポーツ指導者協議会会長 照沼 一美

平成二十二年度も早くも半ばを過ぎようとしております。会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のうえ、ご活躍のこととお慶びを申し上げます。

去る六月、平成二十二年度の総会は慎重なるご審議のうえ提案事項を御決議賜り、衷心より御礼を申し上げます。会長拜命依頼、数年を数えますが、会員の皆様のご期待に添えることが出来ない昨今に苛立ちを感じ、会員の皆様には多大なるご迷惑をお掛け致しております。この紙上をお借りいたしましてお詫びを申し上げます。

茨城県内における、我々スポーツ指導員の環境は、会員の皆様にとつて必ずしも満足される環境にあると感じておられることでしょうか。

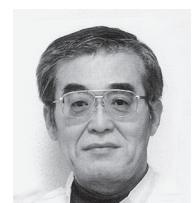
指導者資格付与制度が出来て以来早くも三十五年を経てまいりました。この間、年々新たな資格者が誕生する傍ら、更新される資格者の高齢化もあいまって、有資格

者の総数は横ばいの状態が続くようになってまいりました。このことは、本県ばかりでなく全国的な懸案になっているようでありま

す。関東各都県においては、さらに深刻な事態に入っております。それは資格取得後の指導者としての活動場所の確保に苦慮している有資格者が多くなっております。国の施策の一つに、オリンピック経験者等アスリートの有効利用と、現存の有資格者の活用の促進に向けて、総合型地域スポーツクラブの育成と設立に、国を挙げて実施して参りました。

先日平成二十二年六月二十五日開催実施されました、平成二十二年度スポーツ指導者連絡会議関東ブロック会議でも、共通のテーマとして『スポーツ指導者の養成と活動の促進』サブテーマは「総合型地域スポーツクラブと公認指導者」「公認指導者の更新率向上策について」「学校部活動における外部指導者について」等が各都県の意見により協議されました。このことから各都県の現状が推測願えることと思えます。茨城県と致しまして、これらの課題を真摯に受け止め、積極的に解決策を検討することとなります。会員の皆様におかれましても、これらのテーマを含め、数々の事情をご理解いただき、本協議会への益々のご

# アスリートの口腔管理



茨城県スポーツ指導者協議会理事長 小澤 一友

歯の健康管理は大丈夫ですか。管理が適切に行われていなければ選手の成績や競技スケジュールにまで悪い影響を及ぼす可能性があります。

オリンピック総合病院で施された歯科治療件数は一九九二年バルセロナ大会で約六〇〇件、次のアトランタ大会では九〇〇件以上に増加しました。オリンピックに増加しながらの歯の治療とは如何なものでしょうか。

競技に参加する選手は全員、う蝕、歯周病、欠損歯、感染歯の検査を受け、さらには第3臼歯(いわゆる親知らず)の位置を確かめるために、パノラマX線写真を撮影することをお勧めします。特にコンタクトスポーツでは、顎骨骨折のリスクが高いため、抜歯を検討すべきです。アスリートにはケガはつきも

のです。歯の場合は、特に前歯の欠けや位置のズレ、脱落などが多く、顔面では、唇の裂傷、顎骨骨折、顎関節の損傷などが多く見られます。また、顎や頭部への衝撃は脳震盪を引き起こす可能性があります。意識消失や目まい、さらに重篤な合併症の原因となることがあります。

歯や顔面のケガを予防するためにも、競技中にはマウスガードを着用することをお勧めします。マウスガードの装着により、ケガの予防効果は改善されます。特に身体接触の多い競技においては、オーダーメイドのマウスガードがよろしいです。

またスポーツ飲料も注意が必要です。殆どのスポーツ飲料は、ソルダ水と同程度の酸性度がありま

すので、酸蝕症を引き起こす可能性があります。スポーツ飲料を飲んだ後には、酸の濃度をうすめるために水を飲みましょう。歯のトラブルによつて、スポーツパフォーマンスさらには競技スケジュールなどに悪影響が出ないようにするためにも、適切な管理を不断から注意され、指導されます様お願いたします。



## 平成21年度 収支決算報告書 (平成21年 4月1日～平成22年 3月31日)

(単位:円)

## 収入の部

項目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
1. 会費	960,000	940,000	△ 20,000	4000円×234名・2000円×2名
2. 助成金	360,000	360,000	0	茨城県体育協会(21年度)
3. 繰越金	354,744	354,744	0	前年度繰越金(20年度)
4. 雑収入	55,256	57,392	2,136	利息・委員会返金
合計	1,730,000	1,712,136	△ 17,864	

## 支出の部

(単位:円)

項目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
1. 会議費	190,000	105,456	△ 84,544	
総務委員会	30,000	32,558	2,558	事務用品・切手・会場代・飲み物
常任理事会	20,000	0	△ 20,000	
理事会	50,000	34,398	△ 15,602	事務用品・切手・会場代・飲み物
総務委員会	10,000	0	△ 10,000	
広報委員会	30,000	30,000	0	
研修委員会	50,000	8,500	△ 41,500	
2. 事務費	500,000	528,808	28,808	
旅費	200,000	185,000	△ 15,000	交通費(2年分)
消耗品費	80,000	142,984	62,984	事務用品・コピー用紙・インク他
食料費	10,000	5,100	△ 4,900	各種打合せ会
印刷コピー費	30,000	22,050	△ 7,950	封筒印刷・コピー使用
通信費	130,000	103,510	△ 26,490	切手・ハガキ
備品費	50,000	70,164	20,164	メモリ・ゴム印・プリンタ他
3. 事業費	960,000	640,620	△ 319,380	
会報印刷費	200,000	151,200	△ 48,800	会報59～60合併号
会報発送費	240,000	88,720	△ 151,280	切手・宅急便
研修費	40,000	40,000	0	中央研修会
派遣費	70,000	80,700	10,700	関東プロ会議
県北活動費	80,000	80,000	0	支部活動費
中央活動費	100,000	100,000	0	支部活動費
水戸活動費	30,000	0	△ 30,000	支部活動費
鹿行活動費	70,000	70,000	0	支部活動費
県南活動費	100,000	0	△ 100,000	支部活動費
県西活動費	30,000	30,000	0	支部活動費
4. 予備費	10,000	4,000	△ 6,000	会費返金(重複入金)
5. 雑費	70,000	72,556	2,556	振込手数料・その他
合計	1,730,000	1,351,440	△ 378,560	

収入合計 1,712,136円  
 支出合計 1,351,440円  
 差引残金 360,696円

※上記のとおりご報告いたします。  
 なお、差引き残金は平成22年度予算に繰越し致します。

## 平成22年度 収支予算書 (平成22年 4月1日～平成23年 3月31日)

(単位:円)

## 収入の部

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1. 会費	1,000,000	960,000	40,000	4000円×250名
2. 助成金	360,000	360,000	0	茨城県体育協会(22年度)
3. 繰越金	360,696	354,744	5,952	前年度繰越金(21年度)
4. 雑収入	14,304	55,256	△ 40,952	
合計	1,735,000	1,730,000	5,000	

## 支出の部

(単位:円)

項目	本年度予算額	本年度予算額	比較増減	備考
1. 会議費	202,000	190,000	12,000	
総務委員会	32,000	30,000	2,000	
常任理事会	20,000	20,000	0	
理事会	40,000	50,000	△ 10,000	
総務委員会	10,000	10,000	0	
広報委員会	50,000	30,000	20,000	
研修委員会	50,000	50,000	0	
2. 事務費	450,000	500,000	△ 50,000	
旅費	100,000	200,000	△ 100,000	
消耗品費	100,000	80,000	20,000	
食料費	10,000	10,000	0	
印刷コピー費	30,000	30,000	0	
通信費	130,000	130,000	0	
備品費	80,000	50,000	30,000	
3. 事業費	760,000	960,000	△ 200,000	
会報印刷費	200,000	200,000	0	会報61号・62号
会報発送費	180,000	240,000	△ 60,000	
研修費	40,000	40,000	0	
派遣費	90,000	70,000	20,000	
県北活動費	80,000	80,000	0	
中央活動費	100,000	100,000	0	
水戸活動費	0	30,000	△ 30,000	
鹿行活動費	70,000	70,000	0	
県南活動費	0	100,000	△ 100,000	
県西活動費	0	30,000	△ 30,000	
4. 予備費	43,000	10,000	33,000	
5. 雑費	80,000	70,000	10,000	
6. 準備金	200,000	0	200,000	関プロ会議準備金(24年度)
合計	1,735,000	1,730,000	5,000	

収入合計 1,735,000円  
 支出合計 1,735,000円  
 差引残金 0円

※上記のとおりご提案いたします。

## 平成22年度本協議会事業計画書

### 1. 方針

- 1) 地域住民のスポーツ活動のニーズに対応して、生涯にわたるスポーツ活動への協力と支援を通じてスポーツ指導者の社会的地位向上に努める。
- 2) 資格保有者相互の親睦と連携に努め、指導者としての資質や指導力の向上を図り、スポーツ活動の推進に努める。
- 3) 公認スポーツ指導者の本協議会加入の促進に努める。
- 4) 地域総合型スポーツ活動への参画に努める。

### 2. 目標

- 1) 本協議会の組織充実を図る。
  - ①本協議会の体制充実
  - ②支部組織の充実
  - ③市町村との連携・協調
  - ④競技団体との連携・協調
- 2) 研修会を開催して、資質と指導力の向上を図る。
- 3) 普及広報活動を充実させて、交流と情報交換を図る。
- 4) 財団法人茨城県体育協会および市町村体育協会事業への協力体制を充実させる。
- 5) 競技団体との連携強化を図る。

### 3. 事業

- 1) 平成22年度茨城県体育協会事業協力
  - ①平成22年度中央研修会（茨城県会場）
    - (1)期 日 平成22年8月8日(日)
    - (2)会 場 水戸市・茨城県青少年会館
    - (3)参加者 日本体育協会公認スポーツ指導者・各種スポーツ指導者
  - ②平成22年度地区研修会（県南地区会場）
    - (1)期 日 平成22年11月14日(日)
    - (2)会 場 阿見町・本郷ふれあいセンター
    - (3)参加者 日本体育協会公認スポーツ指導者・各種スポーツ指導者

### ③平成22年度地区研修会（県北地区会場）

- (1)期 日 平成23年2月6日(日)
- (2)会 場 日立市・日立女性センター
- (3)参加者 日本体育協会公認スポーツ指導者・各種スポーツ指導者

### 2) 平成22年度本協議会会報発行

- ①会報61号発行
  - (1)発行月日 平成22年9月予定
  - (2)製本部数 1200部
- ②会報62号発行
  - (1)発行月日 平成23年3月予定
  - (2)製本部数 1200部

### 3) 平成22年度日本体育協会研修会

- ①平成22年度第1回全国スポーツ指導者連絡会議・関東ブロック会議
  - (1)期 日 平成22年6月25日(金)～26日(土)
  - (2)会 場 群馬県・高崎ワシントンホテルプラザ
  - (3)出席者 照沼会長、田畑由紀子、梅村恒雄

### ②平成22年度全国スポーツ指導者代表者会議

- (1)期 日 平成22年10月23日(土)予定
- (2)会 場 福島県
- (3)出席者 照沼会長

### ③平成22年度公認スポーツ指導者全国研修会

- (1)期 日 平成22年10月23日(土)予定
- (2)会 場 福島県
- (3)出席者 照沼会長ほか若干名

### 4) 平成22年度財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者表彰の支部推薦内定者

- (1)内定者 平沢ふく枝様（県北支部）  
柏葉光子様（中央支部）
- (2)提出期限 平成22年6月21日(月)まで
- (3)提出先 茨城県体育協会



県西地区研修会（古河ユースセンター総和）H.22.2.21

## 支部だより

県北支部

支部長

野内康二

県北支部では五月二十三日(日)支部総会を開催し、

- 一、平成二十一年度事業報告
  - 二、平成二十一年度決算報告
  - 三、平成二十二年事業計画
  - 四、平成二十二年予算案
- 等を審議し満場一致で可決、盛会裏に終了いたしました。

本年度総会に於いて特筆すべき事は、例年、総会の前にニュースポーツによる会員のそ相互交歓会、或いは、講師を招いて、我々にとって未経験のトレーニング(気功、太極拳、エアロビ、ヨーガ等)を体験してきましたが、本年度は趣を変え、衆議院議員元大洋村村長「石津政雄」先生の講演を拝聴致しました。

先生は大洋村村長時代、同村に「とっふ・さんて大洋」という健康増進施設を設立し、そこで行われるお年寄りの健康づくりの結果を東大や筑波大の先生方の最先端技術を借りて、科学的に究明され、その結果として大洋村を全国的に名の知れた健康村に仕立て上げられた方です。

教えて頂いた「大腰筋体操」は

驚くほど身体への反応が顕著であり、その効果は、現在トレーニングの主流になっている、インナーマッスルやスロー筋トレを開発するに当たり、その魁になったのではないかと思うほど強烈なものでした。

平成十三年県北支部に改称して以来、我々は支部会員数の増加を願い種々活動をしてまいりました。発足当時七十一名の会員も現在は百四十九名になり、徐々にですが会員数の倍増を図れたことは、会員、支部役員の皆様方のご努力、ご協力の賜物と大変嬉しく思っております。もちろん県体協の方々やジュニアスポーツ指導者やアシスタント・マネージャーの方々にも声をかけてくれたこと、県本部が会員募集に力を入れてくれたことも有難く承知しております。

県北支部ではそれらをふまえ、会員の多くが地域のスポーツ指導者であり、それ故にトレーニングの重要性を十分に認識されている方々だと考え、日々進歩するトレーニングの理論・方法の習得に狙いを定め、そのTTに取り組みで行きたいと考えています。会員皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げ支部活動の報告と致します。

水戸支部

支部長

藤枝平造

水戸支部では各役員の方々に鋭意努力を頂き、市民の立場での指導、実践と研修を重ね活躍されているものと思えます。

近年、日本協は以後、生涯スポーツ社会の実現に国民の多様なニーズと年齢層に応じて安全に正しく楽しく指導のできる資質の高い指導者の育成等事業に取り組んでおり、事業開始からすでに四十五年が経過いたしております。現在、各市町村においては各種目ごと指導に努めながら地域におけるスポーツ活動にサポートしていくことがスポーツ振興に最大の効果が出るものと思われまます。

我々有資格者は地域におけるスポーツ活動の役割をもとに、支部地域の面から日頃の活動が精々と可能性の拡大に向けて頑張りたい。

しかし従来の厳しい指導は罰や叱責を中心とした外発的動機づけによる指導であった。内発的動機づけによってその厳しい練習を行うためにはスポーツの本質的な楽しさを感じることが必要である。

ここ数年、楽しい体育、というようにスポーツの楽しさを教えることが重要視されてきた。しか

し「辛く厳しいことはやらない」ということが、楽しいと捉えられることが多かった。本来楽しい、というのは「一生懸命努力する」ということであり、前者は楽しいのではなく「楽」なのである。つまり選手自ら一生懸命努力すること、厳しい練習に耐え、乗り越えることができるように設立を推進しスポーツの本質的な価値である楽しさや、達成感を感じさせることが指導者の役割として大切なことである。

最後に、現総合型スポーツクラブの設立に向けて地域の状況、日頃の活動に対応していくことが最善の策かと心得ます。

中央支部

事務局

野々村律子

平成二十二年度の中央支部、上級救命更新講習会を去る六月五日(土)午後一時より、ひたちなか西消防署において開催。救命資格を取り、有事の際、必要な時はいく気持ちの人達が、時間を造り集まりました。暑研修係の指導のもと、基本的な事をさらに学び、自然に行動出来るように、今聞いておいた方がよい事等、繰り返しでしか得られないものを、一同真摯な気持ちで、真剣、且つ和やかな雰囲気の中で良い時間を過ごしました。応急処置、AEDを必要とする時はないにこした事はないが、

万が一の時に指導者として悔まれない姿勢が出来ればと思っております。平成二十二年度中央支部研修会を十月三十一日(日)笠松運動公園プール多目的室にて開催準備中です。義務研修となるよう諸手を県体育協会に依頼しております。内容は講演Iトレーニングの科学で内原の藤枝先生より、自律神経のいろいろを学び、指導者として自分の体の事とか、指導対象の人達の体の事等を踏まえた講習を受け、講演IIは、茨城県地域総合型スポーツクラブ育成アドバイザーの方々より、今私達が必要とされている現状、問題、これからの指導者としての取り組み方、関わり方、あり方等を学び、研究協議は、今年度は防災分達指導者はいかにあるべきか、何を知識として持ち得ているべきかを学びたいものと計画を進めています。

上級救命資格取得講習は、平成二十三年二月五日(出)ひたちなか西消防署で開催予定です。指導者として、救命時により高い水準で事にあたれる様にと、支部としては全会員に資格を取得してもらい、更新で学び続けられたいと思っております。

自分達指導者だけでなく、家族、活動仲間、ご近所の人達共広く誘いあって学べればと思いま

す。この事業は継続して実施し、今後共よりよい型が築ければと、事務局としては祈念しております。

**県南支部**  
支部長 櫻井孝之

今年度は県南支部で十一月に開催される研修会に向けて準備を進めております。県体育協会に相談して研修内容については決定し、現在申し込みの受付が始まりました。七月末で三〇名程申し込みがあり、九月から役員会で、研修会当日の運営に関する事項を検討決定し、研修会の準備を進めて行きたいと思っております。

県南地区でも地域総合スポーツクラブが設立され、各クラブの活動も活発に為されている事と思えます。研修会の研究協議では、県広域スポーツセンターに依頼して、各クラブの活動状況や、指導者の関わり方及びスポーツクラブプログラムの、指導する際のコミュニケーションスキルについての研修内容にいたしました。

不断我々指導者は各競技団体の指導者としての役割を担い、活動をされております。不断スポーツをしない一般市民や子供達に、楽しいスポーツプログラムを提示して指導を充実する機会や、経験が少ないのではと思えます。健康志向の高まりや、子供の体力低

下の問題等、社会のスポーツに対する期待とニーズは、今後益々高まって来る。我々はそれに応えて支えて行く人材として、期待されているのではないのでしょうか。今後指導者協議会としても、これらの課題に対し、研究研修を重ねて行く事も必要かと思えます。

**県西支部**  
事務局長 近藤康雄

県西支部の現状を報告します。今年の二月に地区研修会が支部役員の方々のご協力で無事終了し、今年度の支部総会の出席者が毎年同じ様に少なく、役員クラスの総会で終了致しました。今後は会員三分の一が出席し、開催される様、努力して行きたい。

平成二十二年度の主な支部活動としては①普通救命講習会(AED講習会含む)の実施です。(前回には平成二十年度に実施)時期については未定です。

又、県西支部の中で桜川市が総合型地域スポーツクラブを立ち上げるとの話を聞いております。住民頼みの運営も限界か?などと先日、新聞でとり上げていましたが、一市一町でも多く、総合型地域スポーツクラブの立ち上げを推進して行きたいと思っております。

今後は県西支部会員の方々と一回でも多く会える機会を設けて県西支部スポーツ指導者の社

会的地位向上に努力したいと思えます。

**鹿行支部**  
副支部長 君和田治也

鹿行支部の活動を報告致します。

- 平成二十二年度事業計画
- 一、第一回役員会(総会準備)
- 二、前年度会計監査
- 三、中央研修会参加要請
- 四、総会及び研修会(8月22日)
- 五、第二回役員会(広報誌発行準備・鹿行研修会準備10月)
- 六、広報誌発行(11月予定)
- 七、鹿行研修会(23年2月末)
- 八、第二回役員会(反省会3月)

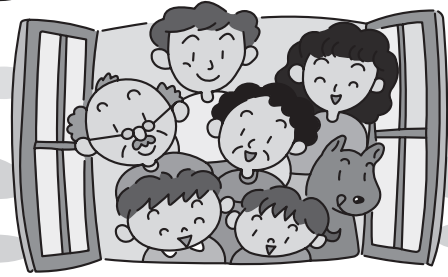
以上の計画で活動する予定です。八月二十二日の総会後には、指導者研修会を行っています。終了後には、講習会としてダンスエクササイズを1時間行いました。内容的にはダンス要素を音楽に合わせて行うフィットネスプログラムです。

このように楽しい研修で、身体のケアや動かし方等、いろいろな知識が少しでも身に付けば良いと思っております。

指導者資格のある方の参加を是非お待ちしています。



# みんなの広場



## 旅がつくる心の絆

県北支部 岡部 恒雄

茨城県スポーツ指導者協議会県北支部が発足して以来二十四年(前組織を含め)を迎えています。

この間、県スポーツ指導者協議会本部はもとより、各市町村教育委員会や行政機関のご協力を得ながら弛むことなく、市町村からの協力要請にも応えられるようになりました。

今日の活動があるのは役員の方の強い協力!! 毎月の役員会議に止まらない、新年会や研修? 旅行など

の親睦からと思っています。過日も古を辿り会津若松市を日帰りで訪れました。

一五八六年(天正十四)には、会津地方を治めていた輩名氏へ、常陸の領主佐竹義重の子義弘が養子となつていきます。時代は少々下りますが、徳川光圀公が貧しい農民達の病氣治療を施すために「救民妙薬集」をつくり、薬草を材料にした簡単な処方(調合)を配付しています。同様に会津藩主第二代正経・三代正容らは朝鮮人参を試植し、民間に奨励をしました。江戸時代末から明治新政府が確立する激動の時代の水戸藩・合津藩に深い思いをいたします。

NHKテレビの「竜馬伝」が、また、水戸藩開藩四百年記念「桜田門外の変」の映画が近く公開予定されています。最後の將軍一橋慶喜公と会津藩主松平容保公の二人は、行動も一時は共にし、「鳥羽・伏見の戦」や「桜田門外の変」の後に幕府と水戸家の調停を努めたのも容保公でした。

人を育成するには教育! 会津の日新館は藩士の子弟教育に努めた(水戸の弘道館・薩摩の造士館と共に三藩校と称される)。白虎隊士も日新館の生徒達、そして文武両道の理念でもありました。この時代も教育が人を! 国を! 造るのです!! 白虎隊士の墓参の際に、親切な観光案内ボランティア

の方に巡り会い、両藩のかかわりを懇切丁寧に説明して頂き、情けの深さに感謝でした。自然や悠久の歴史に触れ、参加者の飾らない素顔が見え、旅は心の太い絆をつくってくれる良薬でした。

## 公認体力テスト判定養成講習会に参加して

水戸支部 吉田 広光

さる七月十七日笠松運動公園にて平成二十二年度日本体育協会公認体力テスト判定筆記認定が行われた。講師に前会長であります野田洋平先生に指導された。

「国民スポーツと体力」「体力診断と運動処方」以上スポーツ活動に関する説明を午前中説明を受けた。この「公認体力テスト員規定」に定める公認体力テスト判定員の講習教程に基づき編集したもので体力テストが正確に能率的実施されるばかりでなく、ねらいが正しく理解され、その結果が有効に活用され、国民スポーツの振興に役立たせることがねらいとしている様だ。

説明指導の中で(一)国民スポーツと体力(二)各種体力(三)運動適性(四)体力診断と運動処方。以上の四ツが主に勉強の中で要項として考えさ

せられた。日本国憲法昭和二十一年十一月三日、すべての国民は個人として尊重される生命自由及び幸福追求に対する国民の権利、公共の福祉に反しない限り立法とその他の国政上で最大の尊重を必要とされていること。スポーツ振興法昭和三十六年とこの法律はスポーツの振興に関する施策の基本を明らかにし、もって国民の心身の健全な発達と明るく豊かな国民生活の形成に寄与することを目的とされている。振興法の中で第十八条に各都道府県市町村にスポーツ振興審議会を置く事ができることも知り、勉強になった。又「体力とは」と聞かれるがそこで改めて「体力」とは何だろうと考えてみると意外に分かっていくように分かっていない「広辞苑」によれば「体力」とは「身体の力」「身体の作業能力」又は「疾病」に対



する「抵抗力」となっている。野田先生の説明はほとんど前に進んで行く。「基礎体力」「専門体力」「体力の構造」「体力の分類」「防衛体力」全部学ぶには相当な時間を要する。文部科学省が新たな「新体力テスト」として各年齢段階における健康関連体力および基礎的運動能力の測定を重視するとともに測定をする現場における実施の円滑さを作成されている様だ。午後から運動適性テストには仮屋茂先生に「立幅とび」「上体おこし」「腕立伏臥」「時間往復」など実施し講習教程に基づき四時三十分閉講した。

改めてスポーツ指導者として今自分ができているのかいずれにせよ身体活動ができるような地域とともに地域に根ざした活動でなければならぬと考えております。

来年三月末で退任する森喜郎会長の後任に、トヨタ自動車会長の張富士夫が就任することが記事に出ました。又七月に日本体育協会が一〇〇周年を迎える。スポーツの普及を担う日本の総本山で国体改革をはじめとする懸案事項は多いと思う。

張氏は球技国体のリーグ構成の日本トップリーグ連携機構の副会長も努め、スポーツ界との関係は深い様だ。これからの日本のスポーツ界に大いに期待をしたいものです。

## 楽しみを創ろう

鹿行支部 君和田 治也

ラグビーの指導者資格に引き続きコーチ資格を取得して早十五年になりましたが、始めの五年間位は何か役に立つ事はないか、やる事があまりに無く困っていました。

現役を終えてから始めたことは少年団活動から総合スポーツクラブ立ち上げと運営のお手伝い、そのうちにスポーツ指導者協議会への参加と様々な行事の手伝いを行ってきました。

私の専門はラグビーをしています。一般的にラグビーをプレーする方は少ないため一般の方を指導することは無く、せつかくの指導者資格があまり役立っていないと感じていました。



この間にも少年団でのドイツスポーツクラブへの訪問やスポーツクラブでの指導者研修などで講演体験をすることが出来たりして、少しづつスポーツ指導の役割をこなせる様になって来ました。

総合型スポーツクラブのかしまスポーツクラブでは、毎年一回、市認定のスポーツ指導者講習会が行われ、私が今までに習ってきた内容を皆さんへ伝えることが多少出来たかなと思っています。

講習会の内容を一部紹介すると、スピードはパワーに変わるから、どんなスポーツにも必要で大なる要素になりますよ。とか、中学生からのバランスの取れた動きが出来る時期より専門的なコーチに指導を受ける事が非常に大事ですよ。と訴えています。

この様な講習会にて指導者の役割が発揮出来ることを運が良かったと思っています。

これからも自分の経験を活かした事を少しでも伝えていければいいのかなと思っています。

個人的にはこの頃ハイキング登山をやり始め旧友達との交流を広げています。この春にはJリーグチェアマンになられた、大東さんや中学時代の同級生と一緒に筑波山へ行き、楽しい一日をつくりました。

「楽しむことがスポーツの原点かな！」とつくづく思っています。

## 編集後記

第六十一号会報発行に当たり皆様に原稿を賜り心から感謝申し上げます。

ご愛読いただけるとなるよう努力してまいりますので、皆様の忌憚のないご意見をお寄せ頂きたいと思っております。

次回の会報発行は

平成二十三年三月

## 広報委員会

担当副会長

島田 昌和

広報委員長

岡野 秀一

広報委員

菅谷 政宏(県北支部)

舛井 幸子(水戸支部)

柏葉 光子(中央支部)

君和田治也(鹿行支部)

坂本 允(県南支部)

又村 和子(県西支部)